
イボババアとその孫の2番目

サダコレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イボババアとその孫の2番目

【Nコード】

N4853E

【作者名】

サダコレ

【あらすじ】

僕の怒りは加速する！それを抑える術を、僕は知らない

(前書き)

実話だよ？いるんだよ？この人

僕（これじゃラチがあかない！話を先に進めねば！）

僕

「おばあちゃん！ご飯いれとくわ！お茶碗どこ？」

ババア

「いやいや、サダコレくんは座るときんさい！おばあちゃんがしたるから！今日はサダコレくんが来ると思っで豆ご飯作っといたで！」

.....

.....僕

「わし豆ご飯好きちゃうしっ！何故に覚えんかねっ！」

そう、この会話も小さな頃から何十回としている。もうヤバイよ、

おばあちゃん！

ババア

「そうか？」

サダコレくんのお母さんや、妹は好きだっで言っでくれるのにな。

…ブツブツ。」

もし僕がシルベスタ・スタローンなら、おばあちゃんの体を粉々にしている。

だが僕はしない。何故なら僕はシュワちゃん派だからだ！

ババア

「大丈夫、大丈夫！おばあちゃん豆よけてお茶碗についだげるから！」そんな問題ではないが、そうしてもらおう。

ババア

「はい、どうぞ。」

……うん、これ赤飯だ。ご飯、真っ赤っ赤だもん。

なんで？僕なんか悪いことした？何重苦なん？これ、何重苦なん？
するとおじいちゃんが、

「そついえば冷凍の海老ピラフがあつたらるお婆さん！」

ないすおじいちゃん！おじいちゃんはしっかり者である！

僕

「じゃあ海老ピラフ作るよ！フライパン使ってもいいかなあ？」……

……僕はおばあちゃんを憎んでしまつのか！？

最終章へと続くのだった！

(後書き)

いや、ほんまに居るんだよ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4853e/>

イボババアとその孫の2番目

2010年11月28日05時48分発行